

すが、あとはそういうフラワー交流都市とかそういう方々が回ってきてくださったっていうことで、向こうと協定を結んでこういうサービスをするということをやすることは可能だと思います。ですから、そういった仕組みづくりも考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

○蒲生光男議長 江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 ありがとうございます。

ぜひ前向きに検討いただければと思います。

そして、最後ですけれども、バート・ゼッキンゲン市の近くにドナウエッシンゲン市というのがあります。上山市との姉妹都市を結んでいるわけですが、上山市のホームページを見ますと、ドナウエッシンゲンのことは本当に詳しく載っております。ドナウエッシンゲン市の政策から教育、文化、環境まで、常にフレッシュなニュースが出てくるわけですね。これから長井市のホームページもいろいろ改訂をされる予定と聞いてますけれども、都市間交流のこうした情報というのをぜひフレッシュな情報を更新していただきながら、新しいページを開設していただきたいものだと思います。これが長井の市民の方々にとって、あそこと交流してるんだっていう、ふだんから実感することにもつながると思えますので、ご検討いただきたいんですが、最後に一言。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ご指摘のとおり、長井市のホームページはかなり前よりはよくなりましたね。3年前ぐらいでしょうか。今回、これではだめだということでもまた新たにリニューアルするわけですが、それと同時に、リニューアルしてもやっぱりタイムリーな、その都度その都度のきちんとしたケアが必要で、その部分がちょっと弱いような気はいたしますので、そこも含めていろいろPRに、そして研修の成果をきちっと報告したいというふうに思えます。ありがとう

ございました。

○蒲生光男議長 江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 ご答弁いただきまして、ありがとうございました。

これで質問を終わります。ありがとうございます。

竹田博一議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位5番、座席番号6番、竹田博一議員。

(6番竹田博一議員登壇)

○6番 竹田博一議員 よろしくお願ひします。通告しております3点について、順次質問をいたします。

最初に、平成25年度から伊佐沢小学校が複式授業になることについて、質問いたします。

いつかは複式になるだろうと予測していたことが現実になり、私自身、悲しい気持ちであります。複式授業の問題では、過去2回ほど一般質問させていただきました。教育委員会の予測では、25年度が2、3年生が複式になると、そして、26年度は3、4年生が複式となると。そして、27年度は2、3年生と4年、5年生が複式になると。それから、28年度は3、4年生と5、6年生が複式になりますと。その後も複式になる学年がずっと続くと思われまます。

一方、ほかの地区を見てみますと、長井小学校は全くその心配はなく、その他の地区においても15年間以上は複式になる可能性はなく、安泰の状態であります。今後、伊佐沢小学校だけが15年間以上にわたって我慢しなければならないのでしょうか。教育は差別なく平等に受けられることの重要性を思うとき、その観点からも真剣に考える問題ではないでしょうか。

そして、長井市小学校将来構想では、今後、

15年間ぐらいは現状のままで推移するのが望ましいという答申を出したことについても、その意をするとするところは、15年間は現状のまま進んで、その以外の学校が複式に直面したら考えるという意味だと思います。その考え方は伊佐沢地区の児童に配慮が足りなく、犠牲を強いるものだと思います。

教育委員会が平成23年7月に実施した伊佐沢小学校、複式と学校統合に関するアンケートの結果では、伊佐沢小学校存続に賛成が50%、学校統合に賛成とどちらとも言えないが50%の結果でした。アンケートで50%程度が統合を考えている状況であるならば、このまま15年間、現状のままにする考えはどうかと思います。今や近隣の自治体も複式授業の解消に向けて動き始めている今、本市も真剣に考えるべきだと思いますが、ご所見をお伺いします。

私は、早急に長井小学校に統合すべきだと思いますが、現実的に複式が実施されることになると、いろいろな不安と問題が考えられます。児童にかかわる指導時間が単式に比べ半分になり学習効率が悪いこと、複式学年の教材研究及び分掌事務等で教師の負担が大きいこと、児童自身が視野の広い豊かな教育や集団での生活に問題があること、したがって、中学校に入学すると同時に戸惑いを感じ、いじめの対象となりやすいことが心配される場所です。いじめに関しては、毎日のように新聞、テレビ等で報道され、社会問題となっており、危惧しております。保護者も納得できる複式授業への対応について伺います。

分校というと、私は大石分校を思い出します。この先児童数が減少し続けることは、伊佐沢小学校の複式授業の恒久化になると思われま。そのようなになれば、伊佐沢小学校は分校のイメージが強くなり、伊佐沢地区全体に暗い印象を与えたいと思います。ほかからの移住者は望めなればかりか、若い、教育に熱心な保護者にとつ

てはある意味で住み心地の悪い地区となり、最悪の場合は住み離れる事態も考えられます。地区を守るためにも、ぜひ分校化にならないよう希望するものであります。

④の「15年間現状のままで」の答申を見直し、再検討する必要があると思います。まずは、伊佐沢小学校だけ長井小学校に統合するべきだと思います。それに向けて複式解消の検討が必要だと思います。ご所見をお伺いします。

次に、最上川河川敷公園構想についてお伺いします。

河川緑地公園は、かわと道の駅を隣接する最上川河川敷の都市計画河川緑地一帯を河川公園として整備し、整備済みの舟通し水路、フットパスや桜づつみをあわせて、観光客や市民に最上川の魅力を知ってもらおうエリアとするとあります。さきに国に買ってもらったときのように、残りの用地調査面積2万1,400平米も同じく国に買ってもらう努力をすべきだと思います。今まで国に対してそのような要請はなされたことはないですか、お伺いします。

河川緑地公園は、堤防の外側にある関係上、水害の危険が非常に高く、特に近年ゲリラ豪雨等も頻繁に発生しており、せつかくの施設が台なしになる可能性が大と思われま。それによって、復旧工事費に多額の経費を要することになります。そのほかに、毎年の維持管理費が相当かかると思われま。この際、無駄な施設はつくらずに、水害にも強い公園をつくるべきだと思います。例えば、全面積に桜の苗木を植えて、桜公園にするのも一つの考えではないでしょうか。そして、桜の季節に観光客の誘客に努めることで、後年度負担の軽減につながると思われま。身の丈に合った公園にすべきと思われま。ご所見をお伺いします。

次に、山形鉄道株式会社の副社長就任についてお伺いします。

フラワー長井線は、昭和63年にJRより鉄道

施設、新車両を無償譲渡を受け営業してから、約四半世紀たちました。以来、地域の重要な交通機関として役割を果たしました。しかしながら、車社会や少子化の影響で乗客数が減少、特に乗客の中心である高校生が大幅に減少し、赤字続きであります。上下分離方式も宙に浮いたままですし、このままでは存続も危ぶまれることになりかねません。乗客の安全面からも保線、鉄橋の補修、列車の更新など問題が山積みの中、公務で大変忙しいにもかかわらず、このたび副社長に就任なされた経緯と、その目的についてお伺いします。

また、公務員特別職の市長が営利を目的とする株式会社に就任して兼職することに公務員法からの問題はないのか、お伺いします。

以上で、壇上からの質問を終わります。ご清聴まことにありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長　ここで暫時休憩といたします。
再開は3時10分といたします。

午後 2時48分 休憩

午後 3時10分 再開

○蒲生光男議長　休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

内谷重治市長の答弁を求めます。

内谷重治市長。

○内谷重治市長　竹田議員のご質問にお答えいたします。竹田議員からは3点いただきましたが、まず最初の、来年、平成25年度からの伊佐沢小学校複式授業についてお答えしたいと思います。

この件につきましては、竹田議員から今回3回目だというふうに思っております。いよいよ来年度に迫ったわけですが、改めて地域の人を含め、保護者の皆様からいろいろ理解を深めて

いただくための努力とか、あるいは今後の伊佐沢小学校のあり方について、教育委員会の中で、あるいは長井市の小学校将来構想検討委員会の中では意見出されたわけですが、それを踏まえて、伊佐沢地区の皆さんとの意見交換の場というのをちょっと配慮が足りなかったのかなというふうに思いますので、今後そういった場の設定が必要だなということをまず最初にお呼び申し上げながら、ご質問にお答えしたいと思います。

平成21年度に出されました長井市の小学校将来構想検討委員会のまとめですと、議員からありましたように、平成30年から35年程度までは現行のまま推移することが望ましいということだったようでございます。また、複式学級の可能性のある場合には、保護者や地域の皆さんと十分に協議しながら慎重に対応を進めるというふうにしております。そんなことから、まずその部分、もう来年迫っておるわけですから、やっぱりまだ意見交換とか協議の場がない、あるいは複式学級の可能性が非常に高いわけですから、理解を深めるための方法が、手だてが必要なのではないかなというふうに思いまして、これは教育委員会のほうにお願いしてまいりたいというふうに思います。

この中で、議員からは、伊佐沢小学校だけが複式として何回も子供たちが大変な思いをする、あるいは保護者が心配すると、そういった中で、将来15年後ぐらいになるとほかの小学校も複式の心配が出てくるので、そしたら検討するというのは、これはちょっと教育の差別じゃないかというご指摘ですが、やっぱり見方によってはそのとおりでございますので、これについては再度教育委員会の中で検討させていただきたいというふうに思いますが、私個人の意見といたしましては、複式学級が、例えばほかの周りの学校、例えば私のところの豊田地区でそうなった場合に、豊田地区でこれはだめだと、保護者

も含めて複式は我々としては選びたくないということであればこれはまた検討するわけでございますが、それでもやっぱり旧市町村単位でのコミュニティっていうのは小学校を中心にあるというふうに自分としては考えておりますので、小学校学区単位内での、今回も第5次総合計画では地域計画を策定していただきたいと思っております。そして、小学校学区単位内で地区公民館があるわけですから、その中でのコミュニティのこれからのますます重要性を考えれば、何とか長井市は統合をできるだけしないで進めていく方法はないのかなというふうに思いますが、しかし、それは子供たちの教育にとって、子供たちにとって果たしていいのかということも再度考えなければならぬと思います。

したがって、再度、これは教育委員会のほうにも働きかけまして、教育委員会側の考え方もございますので、もう一度伊佐沢小学校の複式学級について理解をいただくような、あるいは将来どうするかということも伊佐沢地区の皆さんと意見交換をするような場をできるだけ早くとるということをお願いしてまいりたいと思っております。

市内の小学校については、旧町村立の小学校として地域に密着した教育を進めてきたと。これは竹田議員もご承知のとおりでございます。すばらしい伝統を持つ小学校ばかりであります。そして、今進めている長井の心というのは、とりもなおさず、自分たちの住んでる地域の歴史であったり、風土、風習、伝統文化、そういったものを学んでいこうと、地域のすばらしい自然なども大切にしていこうという考え方でありますので、根本は長井の心というのは長井の旧市町村の小学校単位で行うものというふうに今のところしておりますので、これらについてもやはりもう少し見直しをしなければいけない時期が来るのかもしれませんが。この辺は、私たち行政側、あるいは議会側、住民、保護者、この辺

の意思疎通を図っていかなくちゃいけないと思っております。

少子化が進み、複式学級ができる少人数の学校になったとしても、検討委員会の方針に沿いながら、できるだけ現体制の小学校を存続していきたいというふうに私は今、考えておりますが、先ほどから申し上げてますように、伊佐沢の地域の皆様、あるいは保護者の皆様がいろいろ心配があるということであれば、やっぱりもう一度話し合いを早急にしなければいけないというふうに思います。

複式学級もやっぱり短所もあるんですが長所もあります。こととして3年目ですが、進めようとしておりますオランダの教育の方法、これについては、現にかなり日本国内で輪が広がっております。千葉県の教育委員会、埼玉県の教育委員会でも今、盛んに研究しておりますので、ですから、そういった意味では私どもちょっととっぴだったかもしれませんが、実は、日本の教育の悪いところといいところを伸ばすには、ヨーロッパの中でもいろんな教育のやり方があるんですが、それを学ぶということも重要だと思っております。私が非常に未熟な教育に関する知識で言えば、世界の中で日本と韓国だけが教育は鎖国の状況であるというふうに思っております。それらについては、やっぱり日本の教育のよさを生かしつつも、将来の今のこの社会経済情勢の中で、日本の子供たちが幸せな教育を受けるにはどういう形が一番いいかということも考えていく必要があるんだろうというふうに思っております。

あと詳しいことについては、教育長のほうから答弁いたさせます。

次に、2点目の最上川河川緑地公園構想についてご答弁申し上げます。

議員のほうからは、用地調査面積2万1,400平米を国に買ってもらう努力をすべきでないかということですが、これ経緯を少しお

ちなみに、昭和50年代、60年代、平成の初めに長井橋の公園が整備されたわけですけども、緑地公園として指定したところは200ヘクタールを超えてるっていうふうに聞いております。そのうち公園として整備しようというところが40ヘクタールぐらいというふうに聞いておりますが、昔の構想としては、ゴルフ場みたいなものを考えていたようです。しかし、そこまではする必要がないと。パークゴルフ場としての可能性もあったわけですが、清水町にパークゴルフ場できて大変にぎわってますので、そういった意味ではこちらは役割分担をして、できるだけまちなかに駐車場つくれませんので、文化会館とかタスとか、つつじ公園の駐車場、あるいは今度の道の駅の駐車場とかそういったこと、あるいは花火大会でも駐車場ありませんので、河川敷などに駐車場とかそういったものを考えていきたいと思えますし、あと、驚くべきことは、かつては河川敷の中は一切構築物はだめだったんですが、今は取り外しができるということであると、認可をいただければ、例えば茶屋とかカフェレストランみたいなものもオーケーになっておりますので、そういった意味でいえば、道の駅の隣にレストランとかあるのもいいんですが、引き続き、例えば河床茶屋みたいなものも河川公園の中につくれるわけですから、そういった可能性が広がってくるという意味では、ある程度河川公園として可能性を検討すべきではないかなというふうに思っているところでございます。

ただし、議員おっしゃるように、何十年かに1回は、やっぱり冠水する可能性があります。ダムができましたので、相当程度そのリスクは狭まったとはいえ、やはりゲリラ豪雨等で50年、100年に一遍の豪雨が来ますと冠水するおそれがありますので、そういったことも考慮に入れながら、やはり維持管理ができるだけかからないような検討はしなきゃいけないというふうに

思っているところです。

最後に、山形鉄道の副社長の就任についてでございますが、この7月1日に副社長に就任させていただきましたが、今までは沿線の長井市、南陽市、白鷹町、川西町の市長、町長は、自動的に取締役というふうになっておりました。あと、県のほうは置賜総合支庁長が取締役でございます。

まず、最初に兼業勤務、兼職の話なんですけど、私ども特別職でも市町村長が禁止されているのは、例えば、私が長井市長だとすれば、長井市の取引企業の実業取締役だったり幹部っていうのはこれは禁止されております。しかし、長井市が出資する会社、第三セクターとか財団とか、そういったところの実業取締役等々、社長も可能となっております。それは禁止条項以外ということになっておりますので、私が代表権を持っているものはございませんが、例えば、JAN、日本・アルカディア・ネットワークについては、代表取締役会長に新野副市長が就任しております。これはそういったことでございます。

今回は、なぜ副社長に就任させてもらったかということですが、別に私もしたいわけではないんですが、高校生の進学と置賜地域の足の役割を果たす山形鉄道株式会社はJRの不採算路線を引き継いだ設立経過から、これまで引き継いでから1回も黒字になったことないわけですね。県と沿線2市2町の財政支援により存続されてまいりました。しかし、少子化による利用者減少に伴いまして、設立して25年なんですけど、設立した当時は150万人、年間利用者が。今は80万人を切っております。ですから、半分近くに減ってしまったという状況でございます。そのため、長期的な低金利情勢に伴って、沿線市町が造成いたしました基金、これ6億円あったんですが、この利子の果実の収入が激減した。そして、毎年赤字の部分を基金から繰り出したってことで基金の枯渇が懸念されておしま

して、一時は6,000万円台まで下げました。今回も提案させていただいてますが、おかげさまでこー、二年は若干いろいろ経営努力もありまして、少し上積みできるような状況で7,000万円台ぐらいまで回復しておりますが、経営改善が喫緊の課題になっております。

このため、山形鉄道では平成23年度から経営改善計画に取り組んでますが、同時に今、県のほうで我々沿線と検討してるのが、上下分離方式というやり方でございます。これは議会のほうでもいろいろ鋭意取り組んでいただきましたけれども、いわゆる下のインフラ整備、交通機関の基盤整備については行政側が持ち、そこから上の運営については山形鉄道が責任を持ってやるというやり方でございます。

しかし、このやり方をめぐってさまざまなやっぱり決めなきゃいけない課題がたくさんあります。そうしますと、今の状況ですと、若い経営陣、社長、専務、40代、40歳そこそこでございます、彼らが県とのやりとりを、我々自治体のほうの窓口は県が筆頭株主で県がやりとりしてるんですね。そうすると、どうもいろいろうまくいかない、あるいは我々沿線の自治体は少し取り残されてる部分があるのかなと。ですから、そこを間にうまく入って、よりよい形で上下分離方式、それと同時に利用客が減ってますんで、利用拡大協議会は長井市が持っておりますが、そういったところの利用拡大をもう少し沿線自治体でも図るということで副社長を決めようということで、立場上、やっぱり本社があり、何かといろいろ連絡のとりやすい私が副社長ということで就任させていただきました。

なお、実際のどんな業務をしてるかということですが、月2回、経営会議っていうのを開催されておまして、こちらのほうに出席しております。ここで沿線自治体の立場とか、やっぱり若い経営者ですので、よくその辺わかっておりません、行政のこと。そういったところを説

明したり、あと8月には6回に分けて全社員、40数名ですね、囑託も含めて全社員と意見交換、半日ずつですけどもしてまいりました。その中で、いろいろ社員一人一人は自分のところの部分しかわかってないと、全体のことをよくわかってない、そういったことも改めて認識しましたし、特に鉄橋、線路、いろんな設備、こういったところの老朽化等なかなか予算がつかなくて手直しできないというリスクが非常に高まっているということなども私として認識したところでございます。今後は経営改善に向けた取り組み、内部はもちろんですが、沿線自治体と県のほうに対して、橋渡し役として円滑な上下分離方式と山形鉄道のこれからの存続を目指して努力してまいりたいと思います。

私のほうからは以上でございます。

○蒲生光男議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 竹田博一議員のご質問にお答えします。

伊佐沢小学校が他の小学校と違って複式となるのが教育機会均等の面から問題はないのかというご質問でございました。議員ご指摘のように、来年度、平成25年度の予定児童数によると、伊佐沢小学校は全校児童数が53名となる予定でございます。その中で、2年生が12名、3年生が3名、2学年合計で15名となり、国の学級編制基準16名以下となって複式学級が編制されることとなります。

学級の定数は、憲法に定められた教育の機会均等の趣旨を受けた公立義務教育小学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に沿って県が定めるというふうにされております。複式に係る基準は、二つの学年合わせて16人以下と国の基準で示されており、山形県でも同じ基準が採用されております。

県内には小学校が292校ございますが、その中で複式学級を持っている小学校は68校でございます。県内の23.3%が複式学級のある小学校

というふうになっております。複式学級そのものが法的に教育の機会均等に触れるものではないというふうには認識しておりますが、複式授業には長所、短所もあり、指導上の工夫が求められると考えております。

伊佐沢地区の住民、それから保護者にとりましては、来年度のことということではいろんな不安がおありのことというふうに思っております。これまで伊佐沢地区に対してのそういった関連した話し合いについては、昨年7月9日、このときは現2年生と1年生の保護者を対象にしてアンケートを用意しながら、そのときに説明をしております。あと、ことしになってから1月に伊佐沢児童センターにおいて、全父兄に将来の児童ということの説明を行ってまいりました。また、地区に対しては、前教育長が伊佐沢地区の座談会において複式について触れたということですが、これのみを案件にした説明会等は地区民に対してというのはやっておりますので、この後、検討いたしまして、複式への不安を少しでも取り除いていきたいというふうに考えております。

二つ目の複式授業への対応についてですが、保護者や議員がご心配になっておられるのは、一番は複式になったときの学習及び学力への不安かというふうに思っております。アンケートの中にも初めての複式の学習に対しての不安が述べられておりましたし、この点についてはこれからもいろんな機会に丁寧に説明してまいりたいというふうに思っております。

複式授業では、教師のかかわりが減るのではというご心配がございましたが、複式の学級は2学年にはわたるものの、多くても15人という上限がございます。少人数を生かした教師の直接指導の機会は33人の学級以上に期待できるのかなというふうに思っております。

また、子供が主体的に学ぶ時間、先生が学年を渡るわけでありまして、その間、子供だけ

で学習する時間が必ず出てきます。そこを逆に有効に使うことで、適切な目標設定をして、自主的に学ぶ力をつけると、そんなメリットにも変えることができます。さらに、学年間で学びの交流を工夫して、子供同士の教え合いも意図的に進めることができます。ただ、全ての教科を複式でというのは、教科の特性とか系統性という観点から課題となる部分もございますので、一部の教科は担任以外の、場合によっては教頭先生などが受け持って、単式にして学習するなどの工夫が必要と考えております。

3点目の分校化ということでのご質問がございました。複式学級がふえていったとしても、即分校という、そういうことにはならないかと思いますが、一層少人数の中で地域に根差した教育の充実に努めていくということをお願いしていくことが必要かなというふうに思っております。

また、少人数の学校の中で育まれる異年齢の交流も貴重な体験と思われまして、上の学年の子供が下学年の子供のお世話をする中で思いやりの心も育まれるということもありますし、そういった関係もこれからも育てていきたいものだなと考えております。

一方、大きな集団との交流活動ももちろん必要になったと思われまして、大人数の中での発表の機会でもありますとか、たくさんの人とのかかわりっていうものを意図的につくって、現在でも市内一斉の親善陸上大会であるとか、中学校の入学説明会などは小学校一緒にして進めております。そういう他校との交流などを充実を図っていきたいというふうに考えております。

最後に、複式解消に向けた検討ということですが、効果的な複式授業の充実を図るとともに、先ほど申し上げた一部の教科についての単式化、そんなことを工夫すること、抜本的な解消を図るには、統合して適正規模化を図る、ということが考えられます。ただ、市長答弁

の中にもありましたように、旧長井の町村ですね、その伝統を持つそれぞれの小学校で進められてきた地域とのかかわり深い教育というのは本当に貴重なものでありますし、またそのかかわりの中で育つさまざまな体験、そういうものは子供の健やかな成長にとって極めて大切なものだというふうに思っております。検討委員会の方針に沿って、地域、保護者の意見に耳を傾けながら、今後、教育委員会としても慎重に検討していきたいと、そんなふうに考えております。ありがとうございました。

○蒲生光男議長 竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 それぞれの答弁ありがとうございました。

私、小学校のころのことですけれども、当時は日の出町も伊佐沢小学校に通学して、伊佐沢の学区でありました。それで、大石は当然複式学級でありまして、それでも冬などは大変あのころは交通事情もよくなく、ブルドーザーなんかたまにしか来ない状況でありました。そして、そんなときでも5、6年生になると、伊佐沢の学校ってあのころ大石の方々が、伊佐沢の学校なんて言ったものです、本校っていうか、今の伊佐沢小学校に通学したものでございます。当時は除雪関係もよくなかったんで、それでも大石の地区民、そして保護者などが児童の先頭に立ってかんじきなどを履いて、途中まで道をつけながら登校したというふうに聞いております。

当時の大石の分校でさえも、5、6年生になると本校に通わせると。当時の教育者と保護者の教育に対する熱意というものが感じられたところでもあります。少しでも本校に行って、視野の広い教育を受けさせたいという熱意だと思いますが、今の答弁でありますと、二、三十年はずっとこのままでいくんだと。で、二、三十年ではほかの地区が複式になったら考えるんだというように考えにございますけど、私はそれはち

よっと間違っているんじゃないかな。

やっぱり、学校というのは児童のためにあるんです。地区のためにあるわけではありません。学校というのは児童のためにあり、病院は患者のためにあり、市役所は住民のためにあるっていうように、学校がないと村が崩壊するという方がいますが、そんな試しはありません。例を申し上げますと、大石地区は分校がありました。あっても村が崩壊したんです。みんな優秀な方からおりてきましたので、崩壊しました。学校は村を支えるっていうのは、それは間違っていると思います。

逆に、複式解消になると、伊佐沢は評判上がると思います。伊佐沢に住んでみたいという方が出てくると思います。その証拠には、日の出町が伊佐沢の学区でありました。当時は本当に少なかったんです、家が。田んぼと畑ばかりで。ところが、長井小学校の学区になったおかげで、今はすごい住宅地になってしまいました。やっぱりその効果があるなど、私は思うのであります。

教育長にちょっとお尋ねしますが、近隣の複式導入学校の例ということで資料をいただきましたが、国語、算数など主要な教科には、非常職員や他の教員が入り対応すると。そして、学年ごとの学習になるというように書いておりましたが、伊佐沢小学校もそのような形をとりますか。お伺いします。

○蒲生光男議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 今、複式の抜本的な解消ということはなかなか、さっき申し上げた標準校によって無理なところがございまして、現在、伊佐沢小学校の定数でいきますと、6クラスあるわけですが、それが5クラスに減ってしまうということになりますので、教務主任がつかなくなる、担任以外に教頭と校長先生の学校になるということになりますけども、教頭も授業を持つことが可能でございますので、教頭先生が若

干負担がふえるかと思いますが、算数とかそういうのを一学年分受け持つということで対応が可能かというふうに考えております。

○蒲生光男議長 竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 その場合ですが、主要な教科には他の教員が入って手助けをするということになりますと、どういう格好になるかちょっと想像がつかないんですけど、例えば、教室があいてるわけですから、先生が移動してこちらの教室に行ったり、こっちに行ったりして教えるという形をとるんですか。

○蒲生光男議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 もともと現在のクラスが一つ空くことになります。そうすると、一番系統性で問題が出るのは算数とかなんです。あるいは2年と3年の場合だと教科の名前がちょっと違う、理科とかそういうのが生活科という科になってたりするものですから、そういう場合に、単式化して、クラスを二つ、もともとのクラスを使って子供が分かれて先生がそれぞれに行って授業をすると、そんな形をとるのかと思います。

○蒲生光男議長 竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 そのほかの音楽、図工、体育などは、やっぱり一緒にするというところだと思いますが、さっき、複式学級の特徴をいろいろ述べられましたけど、私から言わせると、それは複式でなくてもできることだというふうに私は思います。

次に、市長にお聞きしますが、副社長に就任なさり、経営者のトップになったわけですが、列車を運行するということは、これはあってはならないことだと思いますけど、重大事故とか、それから経営的な面では重大な損失を出したとか、そういうこともないとも限らないわけで、そうなった場合は経営、その責任というのはどうなるんですか、お伺いします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。山形鉄道は、代表取締役が野村社長、私は取締役副社長ということで代表権は持っておりませんが、当然、常勤が代表取締役副社長と取締役専務が常勤なんです。私は非常勤の取締役の中で副社長ということなんですけども、責任は全て取締役は同様にあるだろうと。一番あるのがもちろん代表者でございますけれども、ただ、これは第三セクターとして山形県が筆頭株主で、第2番目が長井市、南陽市、白鷹町、川西町と、あと個人の株主ということになってるわけですが、その中で、責任についてはこれは最終的には自治体が持たざるを得ないと。社長個人が責任を負うとかという性格の会社ではないというふうに認識しております。

ただし、議員がご指摘のとおり、これあってはならないわけですけども、相当設備は老朽化していて、危険な状況にあると。車両も含めてそのように思っております、一日も早い上下分離方式で必要な部分は整備していかないと、何しろ来年でたしか100年だそうです。長井線が開通して100年だそうですから、100年前の配電とかあるんだそうです。ですから、非常に危険な状況であることは確かでございます。

○蒲生光男議長 竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 ありがとうございます。

まち・住まい整備課長にお伺いします。後年度負担がなるべく少ないようにすべきだと申し上げましたが、その点について一言お伺いします。

○蒲生光男議長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 竹田議員のご質問にお答え申し上げたいと思います。

このたびの予算、上程しておりますが、その可決した後に、現況測量に入りますけども、並行して検討委員会を設置したいと思っております。その検討委員会の中で、市民の皆さんのいろいろご意見を伺いながら、もちろん、後年度負担と

なる維持管理経費についても当然議論になると
思いますので、その辺をしんしゃくしながら、
竹田議員からご指摘のあった維持管理に大きな
負担にならないような施設を検討していきたい
というふうに思います。以上です。

○蒲生光男議長 竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 ぜひ後年度負担の余り無
理のかからないように、身の丈に合った施設を
希望いたします。

これで私の質問を終わります。ありがとうご
ざいました。

散 会

○蒲生光男議長 本日はこれをもって散会いたし
ます。

再開は10日午前10時といたします。ご協力あ
りがとうございました。

午後 3時54分 散会